

目指す学校像	◇ 道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校 ◇ 学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校 ◇ 自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校		
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
●対話的でわかりやすい授業の実践に努めているが、家庭学習が習慣化されている生徒が少ないため、学習調査結果を踏まえ、学習時間の確保に向けた取り組みを継続する必要がある。 附属中学校の開校 3 年目に伴い、中高一貫教育校の良さを最大限に生かすカリキュラムの構築を、高校と附属中学校が協働して進めていく必要がある。 ●進学実績は大学進学141名で、延べ合格者数は246名であった。また、国公立大学現役合格者は茨城大学の現役合格者 5 名を含む過去最多の13名であった。学科改編 1 回生として、低学年より学力向上の方策が適切であったこと、教職員の学習・進学指導スキルが向上したことなどが要因と考える。就職では、公務員や地元企業等に37名が合格し、本年度も学校推薦による内定率 100%を達成した。 高校 3 年間を見通した組織的・継続的な進路指導を行うとともに、キャリア教育の充実を図る。 ●部活動の加入率は、70%台である。ここ 2 年間は、新型コロナの影響で各種大会が中止となる大会があったが、昨年度は、全国・関東大会への出場を決めるなど学校全体に活気があり、制限された部活動ではあったが、生徒たちの部活動への意欲は高く維持されていた。本校の伝統である文武両道を維持し、心身共に健全な生徒の育成に努めたい。 ●学校近隣の住民や、地域の小学校や中学校に対し、定期的にホームページの更新や学校便り等で情報を提供し、地域に愛される学校づくりに努めていきたい。	●学力向上 生徒の学力向上に努める。そのために学習指導の充実を図り、手段として I C T機器の効果的な活用に取り組む。	◇ 教科指導の充実・学力向上 ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇ 授業第一主義 ア 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透	B
	○進路指導の充実 (大学進学支援及び幅広い進路希望支援) 自分を見つめ、将来に対する目的意識を持ち、進学及び就職等の進路を自ら選択・決定し、自己実現ができるよう指導の充実を目指す。	◇ 進路指導の強化 ア 個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇ 就職指導の充実 ア 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進	B
	○基本的生活習慣の確立 (「み・そ・あ・じ」指導の徹底) 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。	◇ 秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇ 健康・安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ 性教育(エイズ教育等)の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進	B
	○特別活動・部活動の振興 (学校生活の充実支援) 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。	◇ ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇ 部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進 ア 施設設備の効率的利用 イ 他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加	A
	○広報・生徒募集活動の充実	◇ 本校への理解促進を図るため、情報収集及び情報発信を積極的に行う。 ◇ 生徒募集活動を工夫し、計画的に及び随時行う。	A
	○コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進	◇ 「たいせつです」運動の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規程の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。 「たいせつです」：体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止	A
	○学校組織運営の見直し	◇ 業務改善を図るタスクフォースの設置 ア 必ずしも教員が担うべき業務であるが削減や縮小の必要な業務の見直し イ 必ずしも教員が担うべき必要のない業務への対応 ウ 校務分掌・学年等の組織内の業務平準化への取組の推進 ◇ 職場環境整備の推進	A
	健康 あいあい 【和気藹々】 報・連・相		

三つの方針		具 体 的 目 標				
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成と目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	卒業までに次のような生徒を育成します。 (1) 明確なビジョンを抱き、主体的に学びを深め、進展するグローバル化社会を主導していくことのできる生徒 (2) 自らの価値を見つけ創造する豊かな感性を養うとともに、互いの人格を認め合い多様な人材と協働・連携できる生徒 (3) 文武両道の精神の下、心身共に健全であるとともに、身に付けた知識と知恵を相互に関連付けた豊かな生活ができる生徒				
	「教育課程の編成・実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 (1) 大学進学へのニーズに応えた拠点校として、理数・国際教育の充実を図り、地域そして世界のリーダーとなる人財を育成する教育 (2) 地元企業、近隣に位置する医療施設、鹿嶋市等との連携により、科学技術や国際社会等に対する探究心を養成する教育				
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	次のような生徒を求めています (1) 中学校で修得すべき基礎学力の上に、思考力・判断力・表現力の基礎を身に付け、主体的に課題を解決しようとする生徒 (2) 国際感覚の基礎を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍が期待できる生徒 (3) 地域のリーダーとなることのできる生徒				
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (全体)	基礎・基本の確かな定着	基礎・基本を定着させるために練習問題等を積極的に課し、反復学習を徹底させる。			B	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導法を引き続き研究し、指導力向上に努める。
	わかりやすい授業の展開	「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導方法を研究し、指導力向上に努める。			B	
		教員間で学習指導に関する情報交換を密に行い、自らの授業改善に活かす。			B	
		生徒の理解度を的確に把握し、確実に理解できる指導方法を工夫改善していく。			B	
	学習習慣の確立	家庭での自主学習の必要性和効果が実感できる授業を展開し、学習の習慣化を図る。			B	
教 科	国 語	基礎学力の向上と、家庭での学習習慣の定着	小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。		B	ICTの活用について教員間で情報共有を行い、より積極的効果的な活用を目指す。また、来年度は附属中の生徒が高校に進学するので、中高の連携に努め、一貫した教科指導を行っていきたい。
			新聞を活用した学習や図書の紹介などを通して、国語体験の充実を図る。		B	
			漢字検定や読書感想文コンクール参加等を通して、語彙力や作文力の向上を図る。		A	
			「ことばのイメージ化」を効率よく図り、理解を深めるために、電子黒板・Chrome book等を積極的に活用する。		B	
	授 業 の 改 善		年間指導計画と評価規準を活用して、授業目標の具現化を図る。		B	
			生徒の学習状況や理解度を把握し、授業に活かすための指導方法の工夫改善を図る。		B	
			各種研修会に参加して教科研修に励み、自己研鑽に努め指導力向上を図る。		C	
			電子黒板等のICTを適切に授業に取り入れられるよう、定期的に教科研修を行う。		C	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	地 歴	基礎学力の向上	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べるにより、学習内容を理解させる。	B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、実物教材を使った授業についても同様に継続していく。
			単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	B	
			生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	A	
			視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	B	
		地理・歴史への興味、関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A	
			実物や視聴覚教材等の積極的な活用により、興味・関心を高める。	A	
			資料の活用・レポートの作成や発表会等の活動を行い、主体的に学習できる機運を高める。	B	
		郷土を知り、郷土の歴史や伝統を守る気風の育成	郷土の地理・歴史を学ぶことにより、自ら調べたり考察したりする態度を育てる。	A	
	公 民 科	基礎学力の向上	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べるにより、学習内容を理解させる。	B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、時事問題を授業で扱ったり主権者教育・理解啓発についても同様に継続していく
			単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	A	
			生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	A	
			視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	B	
		現代社会への興味・関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A	
			新聞や視聴覚教材等の積極的な活用により具体的事象を認識し、興味・関心を高める。	B	
			時事問題を積極的に取り入れ、今を知り、未来を考えさせる機会を増やす。	A	
			模擬投票などの取り組みを行い、主権者として関心や意識を向上させる。	A	
		人間としての在り方・生き方を考えさせる機会を増やし、職業観・人生観や公民としての在り方の育成	青年期の問題を自己の問題として捉えさせ、職業観・人生観について考える機会を増や	B	
			政治や選挙等について、高校生副教材を用いながら指導を充実させる。	A	
			現代社会の抱える諸課題や自分の考えをレポート等にまとめることにより、公民としての在り方、生き方を考えさせる。	A	
	数 学	基礎学力の向上	考査結果を主に学習の理解度を客観的に把握・分析し、理解の不十分な生徒に対して復習を主とした補習等の対応を充実させる。	B	
			ICTを活用した指導方法を充実させ、視覚的理解を得やすい指導を図る。	B	
			教科書や問題集の内容から定期的に課題を与えることで、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		進路希望に応じた指導	副教材や課題をコース毎に分類するとともに、習熟度別に応じた指導を徹底する。	B	
			新共通テストに即した指導の実践を行い、受験に向けたきめ細かい指導をする。	B	
		指導と評価の改善	授業進度の確認や生徒の理解状況などを教員間で定期的に共有し、指導に活かす。	C	
			単元目標を明確にした指導と評価を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	C	
	理 科	科学的に探究する能力と態度の育成	アクティブ・ラーニングを重視した観察・実験をとおして理解を深めさせる指導方法の充実を図る。	A	開設3年目でプロジェクト-Kのポスター発表も定番化し、探究に力を入れた。 Chromebookの活用について、授業構成を検討していきたい。
			ワークシートの活用をとおして、考え方の道筋をより理解できるように工夫する。	B	
		科学的な自然観の育成	学習内容と自然現象や科学技術との関係を示し、生徒の興味・関心を育てる。	C	
			発問や問題演習の中で生徒からの質問を促し、双方向的かつ探究的な授業を行う。	A	
			課題をとおして、授業の復習を徹底し、授業内容のより一層の理解と定着を図る。	B	

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	指導方法の研究と工夫・改善	生徒の学習意欲を高める指導方法の研究と生徒の自立に役立つ授業を実践する。自分の生活をデザインし、将来の家庭生活について自己決定ができるよう、指導内容の工夫と改善をする。	B	B 実習の時間を適切に設定し、基礎技能の定着のための指導を行う。 生徒の実態に合わせた学習活動を設定する。
		生活に必要な基礎知識と基礎技能の習得 実習・実験の充実	実験・実習を通して、生活に必要な基礎知識と基礎技能の定着を図り、青年期として自立を推進できる学習内容を工夫する。	A	
			生活に必要な基礎知識と基礎技能を習得させ、家庭生活を創造する能力と実践的態度を育てるために、指導内容や指導方法の工夫と改善をする。	A	
	情報	コンピュータの基本操作の理解	普段からコンピュータの効果的な活用を目指し、操作技能を高める指導内容を工夫する。 アプリケーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解させる授業内容の工夫をする。	A A	A 情報モラル等の知識について、継続して指導をする。 また、ICT機器の効果的な活用法についての研修が必要である。
		情報通信ネットワークの理解	情報通信ネットワークに関する情報収集や発信において、信頼性や信憑性を留意させるとともに、個人情報保護や著作権等にも配慮させ、情報化社会で必要な心構えについて学習させる。	A	
	商業	コンピュータの基本的なデータ処理	市販ソフトを活用し基本的な操作技能を身に付けさせる指導方法の工夫をする。 情報化社会に対応できる能力を身に付けさせる教材の工夫をする。	A A	B データ処理能力と情報モラルに関する知識・技能を身に付けさせる指導の工夫を図る。 生徒が主体的に活動できる専門的な学習方法について研修が必要である。
		情報化社会を認識した活用技術の定着	情報化社会におけるコンピュータの役割を理解させ、専門用語や基本的なデータ処理の方法を学習するとともに、日常生活で活用できる力を身に付けさせる授業内容の工夫をする。	A	
		資格取得の奨励	生徒一人ひとりの能力に応じた受験級を設定し、検定試験により技術の到達度や知識の理解度を確保させる。	B	
教 務		進学重視型単位制の編成並びに中高一貫教育校の運営を推進する。	グランドデザインを基に進学重視型単位制の新教育課程を編成し、高校と附属中の円滑な学校運営のために尽力する。	B	B 来年度の進学重視型単位制への移行に向けて、内規の整備のみならず、附属中との連携をすすめていきたい。各部署との連絡調整を円滑に行い、授業時間を確保できるように、行事や予定の調整をしていきたい。
		生徒が生き生きと輝く授業実践及び学習評価と校内研修の充実を図る。	定期考査の滞りない実施や、観点別評価による適正な評価により、授業へ取り組む意欲を喚起する。	B	
		授業時間の確保と緊密な連絡・調整を行う。	各分掌・学年との連絡・調整のもと、行事・日程等の効率化を図りながら、授業時間の確保に努める。	B	
生徒指導	人権尊重の精神の育成		総合・道徳の時間の中で、命の尊さについて話し合い考えさせる。	B	B コロナによる制限の緩和が予測される中で、全校生徒参加型の集会や講演会等が開催されることを期待したい。また、交通関係において、自転車による事故防止の継続した指導およびヘルメット着用の義務化が徐々に強まっている現状を踏まえ対応を考えていきたい。
			偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A	
			集会やホームルーム等を積極的に活用する。	B	
	基本的生活習慣の確立		規則正しい生活リズムの確立を図る。	A	
			頭髪や服装など規則厳守の精神の育成に努める。	A	
			社会の一員であることを自覚し、正しい判断力の育成に努める。	A	
	交通安全教育の推進		関係機関による講演会や校外指導を実施することで、交通事故防止に努める。	B	
			自転車・原付バイク・四輪車について、登録管理の徹底及び免許取得規定の厳守を図る。	A	
			生徒の自転車運転における損害賠償保険の加入に努める。	B	
	情報モラル教育及び有害情報対策		様々な機会を捉えて、情報活用能力の育成を図る。	B	
			講演会や動画等を通して有害情報をより具体的に生徒に掲示する。	B	
	薬物乱用防止教育の推進		警察をはじめ、大学や医療機関による薬物乱用防止講話を実施する。	A	
			警察や関係機関との連携を密にし、情報交換を行う。	B	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	進路目標の実現	学習実態を含む進路希望調査を年間3回実施し、定期的に生徒の実態把握に努め、各学年の進路指導にあった適切な資料の提供を図る。	A	引き続き新型コロナ拡大防止策を講じながら、各学年のキャリア支援・希望進路の実現のため、連携をより強化したい。 進路指導室の職員常駐化と個別進路相談開放時間の増加、進路資料室の充実を図りたい。
		全国模試・適性検査等の分析による生徒の学力状況の把握・評価を行う。	B	
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に適する就職を実現し、内定率100%を目指す。	A	
	進路意識の高揚	学習指導部・各学年・各教科との連携による各種キャリア支援・進路指導の充実を図る。	B	
		大学教員による模擬授業・公開講座・大学見学会・進路講演会等の実施による生徒の進路意識の向上を図る。	A	
		総合型選抜・学校推薦型選抜に関するデータを収集・分析し、有効活用を図る。	B	
		課外授業や各種検定試験への積極的な参加を支援し、自ら学ぶ姿勢を育成する。	B	
		新課程を含む大学入学共通テストの情報収集および研究に努める。	B	
	組織的な指導体制の構築	「進路資料」「進路通信」を発行し、精選した進路情報を提供し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	A	
		利用促進のために進路資料室を整備し、進路相談に適切に対応できるよう努める。	B	
特別活動	ホームルーム活動の充実	生徒による主体的なHR運営と、特色のあるHR活動の実践を支援する。	B	昨年度はコロナ禍のため、行事がほぼ実施できなかったが、今年度、感染症対策を徹底したうえで、文化祭などの生徒主体の学校行事が実施できた。また、生徒会活動も以前のように生徒が考えてできる活動が増えた。次年度は生徒主体のホームルーム活動を充実させていきたい。
	生徒会活動および学校行事の充実	生徒の自主的・自発的活動を促すとともにギャラリアスペースを活用した行事運営を実践していく。また主体的な学校行事の企画運営に関して中・高が協力して行うよう支援する。	A	
		感染症対策を徹底し、各種行事をとおして自主的・自律的かつ責任ある行動のどれる人間の育成を図る。	A	
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A	
		統一的な指導体制を維持し、生徒の安全と活動を見守り、部活動の環境を整える。	B	
	ボランティア活動への理解と参加	生徒が自主的にボランティア活動ができるように情報を提供し、奉仕の心の育成を図る。	A	
		地域社会に目を向け、地域に貢献する人材の育成を図る。	A	
学習指導	総合的な探究の時間の活性化	学校として、「総合的な探究の時間」の統一性を図る	C	探究活動において、各学年の計画や結果などの参考情報提供をしていきたい。研修案内は各職員の要望も踏まえて、継続的に行う。授業評価アンケート集計結果を保護者と共有すると共に、次年度への課題と取組に生かす。
		「総合的な探究の時間」3年間の流れを見える化	C	
	効果的な学習指導法の研究と実践	令和4年度いばらき高等学校学力向上推進総合事業への参加と教職員研修の実施	A	
		各教育研修事業の案内・推奨□	A	
		Find!アクティブラーナーの活用促進	B	
		小論文指導において、該当職員への外部講座の推奨	B	
	学習指導部運営の円滑化	教科年計指導計画の取りまとめ	A	
		学年、教科、他分掌との連携を図る	B	
図書視聴覚	図書館・視聴覚室の環境整備と充実	図書館の常時開館、視聴覚室等の環境整備に努め、利用しやすい環境づくりに努める。	A	探究活動を支援する情報センターとしての環境を整える。図書委員会によるイベントなどを企画し、利用を促進する。
		生徒や職員に購入希望調査を行い、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
	本に親しむ環境整備	読書・学習・情報センターとして、機能的な環境づくりに努める。	B	
		図書委員会の活性化を図る。	A	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉 外	P T A活動・同窓会活動の推進	P T A総会や同窓会活動への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	C	C	次年度はコロナも収まり、PTA、同窓会、学校が連携した活動が活発にできるようにしたい。
	保護者と学校との連携	同窓会・学校・保護者との連携を図る。	C		
		さらに保護者と学校の緊密な連携を図る。	C		
	広報活動の充実	P T A新聞や同窓会ホームページの内容等を吟味し、その内容の充実に努める。	C		
		広報活動や各種研修会に積極的に参加する。	C		
保健厚生	学習環境の整備	校内の施設設備の定期的な安全点検するとともに管理徹底を図る。	B	B	学習環境整備と環境美化意識を高め、日々の清掃を効率的、計画的に行う。 防災・防犯に関しては、多くの災害・犯罪が発生していることを踏まえ、避難・防犯訓練の中で考える力を養う。
	環境美化意識の高揚	整備委員会をはじめ、クラスや部活動などで校内の美化に努める。	B		
		ゴミの分別処理の徹底を図る。	A		
	防災・防犯訓練の充実	防災避難訓練や不審者対策としての防犯訓練等を計画的に実施する。	A		
		地域の関係機関等との連携を図る。	C		
	健康・安全教育の充実	面談、相談を通して、生徒の健康問題等に早期に対応する。	B		
		感染症対策、食生活、運動習慣確立のための情報発信を積極的に行う。	A		
心身の健康管理ができる生徒の育成	生徒の健康管理能力育成、体力の向上のための事業を計画的に実施していく。	C			
	積極的に体育的行事に参加させ、活動をとおして仲間づくりを实践させる。	B			
教育相談	問題を抱えた生徒への理解と情報の共有化	問題を抱えている生徒の早期発見と対応に努め、教員間の情報の共有化と共通理解を図る。	B	B	悩みを抱えている生徒の情報共有を大切にする。 研修会への参加を活発にする。
	校内研修の充実	多様化する生徒への対応に応じた研修を行う。	A		
情報	成績の管理	統合型校務支援システムを充実させ、生徒の成績に関する情報を管理する。	A	B	統合型校務支援システムの新システムへの対応をおこなう。 ICT機器の授業への活用促進を図る。
	ICT教育の推進	chromebookの研修等を実施し、活用促進を図る。	B		
	働き方改革の推進	きんむくんの準備・管理を行い、働き方改革を図る。	A		
	運用・管理	教育情報ネットワークのアカウント管理と、Google Classroom、Classiの運用を適切に行う。	B		
広報	企画運営の習得	様々な広報活動に取り組む中で作業内容や意義を理解する。	B	B	学校説明会や学校公開のさらなる充実を図る。また、ホームページを活用した広報活動の充実。
		附属中学校と緊密に連絡を取り合い協力して有機的な広報活動にする。	B		
	広報活動の刷新	学校ホームページを定期的に更新し、閲覧数を増やす。	B		
		スクールガイド、クリアファイル、ポスター等で本校教育活動が地域に見えるようにする。	B		
		写真や動画を積極的に活用することで、本校の教育活動を地域にわかりやすく知らせる。	B		
	学校紹介の充実	学校説明会や学校公開を状況にあわせて充実させる。	B		
鹿苑だより等で地域や保護者と情報を共有する。		C			

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題
第 1 学年	本校の新しい歴史と伝統を作り上げていく精神の育成	本校の歴史と伝統を自覚し、学校内外を問わず鹿島高校生としての誇りと責任ある行動を心がけ、充実した高校生活を送るための意識を高める。	B	B ・家庭での学習習慣を確立させるための工夫を教科及び学年で取り組む。 ・進路に関する講演会や進路行事の実施、探究活動を通して卒業後の自分の進路について早い段階から目標を持って取り組める素養を育てる。 ・生徒会活動やボランティア活動などへの積極的な参加をよびかける。
	規範意識の涵養と心の教育	学年集会や道徳等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
		道徳・LHRを含む教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	B	
	学力の向上と進路目標の設定	主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	B	
		予習・復習を中心に家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため各教科で小テストなどを実施し、基礎学力の定着・学力向上を目指す。	B	
		進学課外や各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路の方向性を明確化させる。	B	
特別活動に積極的に参加する精神の高揚	部活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促すとともに、自主・自律の姿勢を持たせ学業との両立、健全な精神の育成を図る。	B		
第 2 学年	学力の向上と進路目標の設定	「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	B	B ・次年度も、できる限りの各種講座、特別活動、進路指導等の実施をしていく。多様な進路希望に対応できる準備をし、クラスではお互いを高めあい、全生徒の進路達成を目指していきたい。継続的な学習に励む必要性や資格取得の必要性を根気強く指導していきたい。 ・ボランティアなどの社会貢献活動や校外活動に今後も積極的に参加できるよう、声かけを継続したい。
		家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため、各教科で小テスト等を実施する。	B	
		学力向上のための課外講座、各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路選択の方向性を定めさせる。	B	
	規範意識の涵養と社会性・主体性の育成	学年集会やきめ細やかな個別面談指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
		社会で通用する言葉遣い、挨拶などTP0をわきまえた言動がきちんとできるように指導す	A	
	学校生活の充実	文武両道の精神に基づき、部活動と学業の両立を図れるようサポートする。	B	
		修学旅行をはじめとする学年行事を有意義なものにするため、事前に綿密な計画をし、教員間の連携を図りながらその実現を目指す。	B	
特別活動に参画する精神の高揚	生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会貢献活動への積極的な参加を促し、健全な精神の育成を図る。	A		
第 3 学年	鹿島高校として品位のある生活態度の確立	伝統校の生徒としての誇りを持ち、校内外を問わず、正しい容姿・態度を心がけるよう継続的に指導する。	A	A ・進路実現に向けて、早い時期から継続的な学習に励む必要性や資格取得の必要性を根気強く指導していく。 ・一般入試での合格者増に向けて校内システムの整備をすべきである。 ・生徒一人ひとりの進路実現のために、教員としての学習指導・進路指導力を高める。 ・国公立大学、難関私立大学の合格者を増やすための生徒のレベルアップを図る方策を常に探求する。
		社会で通用する言葉遣い、挨拶などTP0をわきまえた所作が出来るように指導する。	A	
		集団の中での役割を自覚するとともに、社会性を身に付けるため様々な教育活動を通して責任感や助け合いの心を醸成し、他者を思いやることができるよう指導する。	A	
	進路実現のための確かな学力を醸成	面談等の個別指導の充実を図り、良い進路選択をできるように、生徒に寄り添い、助言・指導しながら進路指導を丁寧に的確に行う。	A	
		予習・復習の徹底（鹿島スタイル）を図りながら授業に集中し、家庭学習も定着させ、希望進路の実現に向けて生徒の学力向上を図る。	B	
	高校生活の集大成する	自主・自立の姿勢を中心に部活動と学業の両立を図るよう、継続的に指導する。	B	
		高校生活の集大成がしっかりとできるよう、時間をかけた対話の教育を実践し支援する。	A	

※ 評価基準

A=大変良くできた B=良くできた C=普通 D=やや不十分 E=不十分